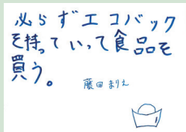
第９回　春を待つ水鳥たちを見に行こう！
2023.1.22

冬の不忍池は、野鳥観察をこれから始めてみようと思う人には絶好の場所です。はじめて双眼鏡を手にしたこども達がみんなで水辺に目を凝らしてみると、いろいろな鳥を見つけてくれました。冬鳥のオナガガモやキンクロハジロ、オオバン、カワウやユリカモメ、運よくカワセミもみることができました。名前よりも鳥のしぐさやくちばし、脚の色など様々な特徴に気づかせてあげるのもこども達の観察会ならではの風景です。「カワウはなぜ羽を広げて休んでいるの？」「オオバンが首を前後に振って泳いでいるよ！」。１年間活動してきたボランティアスタッフの方々が一緒にいてくれるおかげで、こども達ものびのびと気づいたことを話し、観察を楽しんでいるのが印象的です。これからも四季を通じて、不忍池や上野公園の多様な自然の変化に気づいてほしいものです。

最後にプレゼントされた手作りバードコールを使って、これからもこども達が身近な鳥や自然と、「遊び」、「学び」、「伝え」、そして「守って」くれるきっかけになってくれれば幸いです。　講師　小野紀之

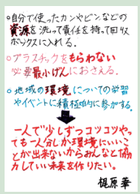
第10回　さあ、始めよう！私たちにできること
2023.2.19

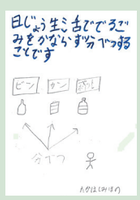


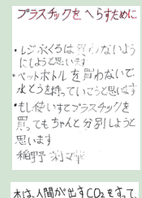
10回目は終了式です。これまでの活動を記録した写真を見て体験を振り返りました。自分の感想と、一緒に活動した友だちの感想をワールドカフェ方式で話し合いみんなで共有しました。

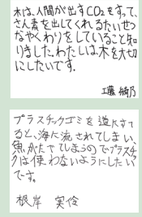
今期も比較的、会話をする時間を多く取りました。問題に対してそれぞれの考え方があったと思います。自分の考えをしっかりと持つことで、人の意見を聞いたときに話し合いが生まれてきます。これからの社会の主人公として自分で考え行動する人になって欲しいと願っています。今日書いた、未来への約束を果たせるように進んでいってください。

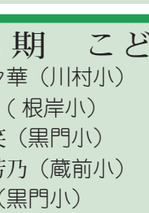
宝物を、宝物として守っていけるかどうか、今の私たちの行動が非常に重要です。

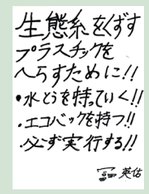


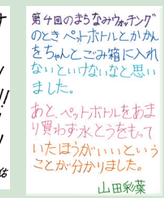


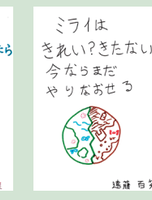


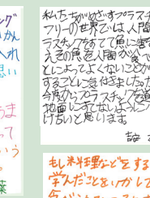


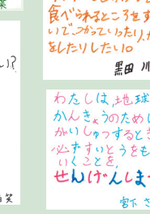


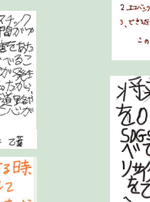


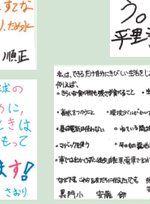


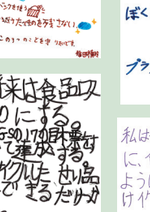


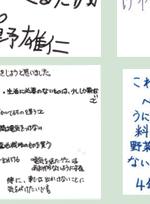


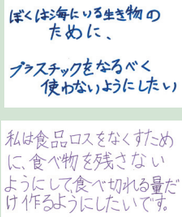


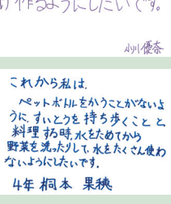


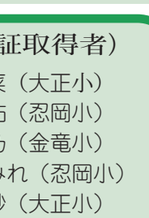












第 23 期　こども環境委員会メンバー（リーダー認定証・修了証取得者）

稲野　莉々華（川村小）	根岸　実怜（根岸小）	渡辺　敬斗（大正小）
梶原　華　（根岸小）	桐本　果穂（蔵前小）	山田　彩葉（蔵前小）
遠藤　百笑（黒門小）	福田　槙玲（金竜小）	長島　光君（田原小）
高橋　美芳乃（蔵前小）	吉安　乙葉（蔵前小）	黒田　順正（田原小）
安藤　鈴（黒門小）	宮下　紗緒里（蔵前小）	小川　優奈（松葉小）
藤田　万里江（根岸小）	相葉　千尋（東泉小）	

道田　愛菜（大正小）		
冨田　英佑（忍岡小）		
工藤　綺乃（金竜小）		
村上　すみれ（忍岡小）		
丸山　知紗（大正小）		

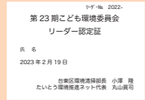
こども環境委員会ボランティアスタッフ
伊野綾那（大学生）　碓水州恵　碓水成人
熊谷節子　坂下　誠　善財裕美　辻本利雄
渡　龍大（大学生）

2022 年度台東区こども環境委員会活動報告書
編集：たいとう環境推進ネット環境学習部会
発行：台東区環境清掃部環境ふれあい館

※こども環境委員会のプログラムは地域の学び推進機構が運営する学びのポイントラリーに登録しています。

発行日　2023 年 6 月 18 日
台東区環境清掃部環境ふれあい館・たいとう環境推進ネット環境学習部会

第 23 期 こども環境委員会 活動報告書



2022 年度「第 23 期こども環境委員会」は小学校４年生～６年生 43 名から応募がありました。COVID-19 がもたらす影響がやや薄れてきたためか、前年度よりは少なくなりましたが、依然として受入数の倍近い応募でした。抽選の結果 26 名の参加者を選び、全 10 回のプログラムの内、７回以上参加した 15 人にはこども環境委員会「リーダー認定証」、５回以上参加した７人には「修了証」が授与されました。熱心な参加は、子どもたちにとって地球環境の変化が大きな関心の的になっていることの証左であり、現在の社会をつくってきた大人として胸が痛む瞬間でもありました。

参加者は、地球環境や地球上の生き物たちとのつながり、人との関わりなどを学び、いろいろなことを想像し、自分なりに考えながら１年間のプログラムを体験してきました。知って、考えて、行動する、その思いの一つひとつを大切に育て、つなげていく手助けができていれば大変嬉しいです。

時代の不透明感が更に強くなり、大人も様々な判断に迷うことが増えてきています。常にスタッフそれぞれも初心に戻って地球の声に耳を澄ませると共に、見えなくてもあるものを感じ、考えていく力を養い、一つひとつ活動を積み重ねていきたいと思います。

第１回　オリエンテーション　友だちと仲良くなろう！
2022.6.19

第１回目の目的は、初めて出会う人たちとコミュニケーションを取る事、自分自身のことや、まわりのことを知る事、あらゆる「こと」や「もの」はたった一つの地球の中でつながっている、と気づくことです。
以下は１回目が終わった後の参加者の振り返りシートに記された言葉の数々を抜粋したものです。

「友だちとなかよくなれてよかった」「さいしょのじゃんけんゲームが楽しかったです」「地球上の淡水がとても少なくて、それを約 78 億人で分け合っていることを知っておどろいた」「自分のわがままなどが、世界のみんなを傷つけてしまっていることが自分にもまわってくることがどれだけ大変なのか実感しました」「自分たちも生活をあらためてみないといけないなと思った」「CO2 やプラごみなどの排出などを知れた。これからの暮らしの勉強になった」「地球が今どのような状況になっているのか、どうすれば良いのか勉強になった。思うだけではなく行動しないと。今日から少しずつでもやっていきたいと思った」「環境問題について教わった。人間は自分勝手な存在なのだなと思った」「みんなの名前を知れてうれしかった。これからこのメンバーで過ごしていくために、相手とコミュニケーションできるのはとても良いと思います」「今回は初めて知ったことや知らなかったことが分かりました。環境についても今回たくさん知れましたので、次回がとても楽しみです」

これからの１年間で、彼らに何を伝えられるか、彼らがどのように変わっていくのか、興味を持って接していきたいと思います。

第２回　使用済み食用油で石けんづくり
2022.7.17

今回はリサイクルに挑戦です。揚げ物など料理で使った油はその後の料理の中で徐々に使い切ってしまうことが一番良いのですが、それでも使い切れずに残ってしまった食用油(廃油)を原料にして石けんを作りました。作り方は苛性ソーダとお湯と廃油を混ぜるだけ。簡単に見えますが、リサイクルって実は時間も手間もかかり結構大変なことがわかりました。また、廃油のリサイクルは水を汚さない行動であることもわかりました。できあがった石けんは「環境フェスタたいとう」や「環境ふれあい館まつり」で来場者に配布します。添付するメッセージカードも作りました。

後半は、環境ふれあい館屋上のソーラーパネルや太陽熱温水器の見学です。屋上に降った雨水は地下に貯めトイレ用水の一部で利用されています。常設の資源回収拠点もあって、環境のことを考えて私たちにもできる行動を色々教えてくれる施設だということを知りました。石けんづくりの途中でアクシデントがありました。みんなの対応が良く大きな事故になりませんでした。これからも気を抜かずに取り組みましょう。また、中学・高校生の２名がボランティアとして参加してくれました。ありがとう！「石けんづくりを自慢したい」という感想をもらいました。